

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

SK18087
S2019026
神機構-82

③施設名等

名称：	ポート金が谷
施設長氏名：	星 頼子
定 員：	30名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	2009/8/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人ル・プリ
職員数 常勤職員：	20名
職員数 非常勤職員：	8名
有資格職員の名称（ア）	保育士・幼稚園教諭
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	5ユニット（ホーム）、各ユニット個室6部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	親子訓練室（畳部屋、キッチン、浴室、脱衣室）
施設設備の概要（ウ）：	ショートステイルーム、心理療法室
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>○子どもの最善の利益を主として、子どもが安心を感じられる生活を送れるようにしていきます。</p> <p>○大人との関係性の心地よさを感じながら、他者から愛され大切にされているという実感を得られるように支援していくとともに他者を思いやる気持ちを育てていきます。</p> <p>○自立支援計画は、子どもの意見に耳を傾け、子どもが自身の将来について夢や希望を持ち、将来の生活についてイメージが持てるよう策定し、夢や希望の実現に向けてのアドバイスやその方向性を探っていきます。卒園に近い子には進学・就労の進路を検討し、卒園後の生活について具体化していきます。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>○全室を個室に改修し、プライバシーに配慮した生活を送ることができるようにしている。毎日、職員と個別に話ができる時間を設け、子どもたちの思いを受け止めている。特に低学年の子どもは、職員と個別に過ごすことができる時間を大切に感じている。</p> <p>○毎日の朝食と、月・木・土・日曜日の夕食は、厨房ではなく、職員が各ホームのキッチンで作り、土曜日には子どもからのリクエストをメニューに取り入れ、食の楽しみを得られるようにしている。職員手作りの食事は、子どもたちに人気があり、子どもたちはとても楽しみにしている。楽しく会話をしながら食事ができるよう取り組んでいる。</p> <p>○卒園した子どもがいつでも気軽に訪問できる体制を整えている。年1回「カミングデー」を設け、卒園した子どもや退職した職員を招き、皆で食事を囲んだり、ゲームを楽しんでいる。</p> <p>○医療的ニーズの多い子どもたちに向け、常勤の看護師と心理士を配置し、子どもの健康管理や医療面のアドバイス、心理的ケアが必要な子どもに対するカウンセリングや箱庭療法等を行っている。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/5/7
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/2/3

⑦総評

○平成29年4月、「くるみ会」「試行会」「杜の会」の三法人が、各地域での実践を通じて積みあげてきた成果を統合し、新しい法人を立ち上げている。それぞれの事業本部を中心に、児童福祉や高齢福祉、障害福祉の各分野で広く活動している。

○子どもたちは、男女混成の5つのホームに分かれて生活を送っている。子どもたちの自主性を尊重し、自分から積極的にチャレンジできる機会を設けている。子どもの年齢や特性に応じて、本人が理解し行動できるよう、失敗しても叱責せずに、ポジティブに考えられる声掛けを心掛けている。

○中庭を改修し、子どもたちのニーズに合わせ、サッカーゴールやバスケットゴールを設置している。また、各ホームに置いてある玩具や本も、子どもたちの発達の状況に合わせて用意している。小学生を対象とした学習ボランティアによる夏休みの学習や、NPO法人主催のイベントへの参加等、子どもたちが積極的に地域社会で活動できる機会を提供している。

○自治会や子ども会の活動に、子どもたちが積極的に参加している。子どもたちは、地域の運動会やお祭りに参加する他、公園の清掃等にも出掛けている。また年1回、事業本部全体で地域に向けた交流会（お祭り）を開催している。交流会には、地域のバンドやチアダンスの方も参加する他、子どもたちの学校の先生や友だちも訪れている。

○親子関係の再構築については、児童相談所と連携し、家族の意向や現状を踏まえ、段階的に取り組むようにしている。親子の交流時に困難と感じたこと、家庭復帰に向けて不安に感じることを確認して支援している。施設内に親子訓練室を設け、子どもと過ごす場を提供している。

○退所を迎える子どもには、事前に一人暮らしの練習を施設内で行い、職員からも自立した生活を送るための助言や指導を行っている。家庭復帰した子どもや、措置変更した子ども、退所した子どもについては、アフターケアの担当職員が中心になり、一定の期間連絡を取り、退所後の様子を確認しながら、アフターフォローを行っている。

○福祉人材の確保・定着に向け、新任職員については、採用前の法人全体の新任研修の他、事業本部においても主査、主任が講師を担い、新任職員研修を実施している。研修担当を主査、主任として、年1～2回外部講師を招き、ライフストーリーワークや性教育等の内部研修を企画・開催している。大学等との関わりでは、奨学金制度やインターンシップ制度を取り入れ、必要な人材の確保に努めている。

○施設長と職員の面談を年1～2回定期的に実施する他、今年度より、職員の指導、育成を強化するため、主査・主任と職員との面接を始めている。主査・主任との面接では、OJT（職場内の現任訓練）を中心として、仕事をしていく上で困っていること、悩んでいること等を確認し、業務上の目標等を聴き取る場としている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

3回目の第三者評価となりました。こども達への聞き取りをはじめ、職員の聞き取りにおいても丁寧に行っていただきました。また、前回受審の結果を経て、努力してきたことを評価していただくことで、職員のモチベーションにもなっていると感じました。しかし、今回の結果を踏まえ、改めて検討をしなければならないことや、より丁寧に伝えなくてはならないことなどが見え、今後の経営、運営、および養育に反映できるように心がけられればと思います。まだまだ、検討を重ねなければならない事柄が数多くありますが、施設が一体となって、今後も子どもたちがより良い環境で過ごせるよう努力していきたいと思えます。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるような具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

理念、基本方針については、職員からの意見を集約し、3月末の理事会の承認を得て、まとめている。内容は4月の職員会議の場で職員に周知するとともに、法人の運営方針を冊子にまとめ、職員に配布している。運営方針は法人のホームページに掲載する他、年2回、広報誌を発行して周知を図っている。子どもたちや保護者に対しては、周知を図る機会を設けたり、資料等の作成は特に行っていない。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		
【コメント】		
社会福祉事業全体の動向は、法人全体で把握するよう取り組んでいる。また、施設が所属する事業本部においても、定期的に施設長や事務関係職員が集まり、打ち合わせを行っている。事業本部での打ち合わせでは、加算等の配分の仕方や労務関係の規程の見直しを行っている。社会福祉事業全体の動向は、関係する部分について、職員に説明し周知を図っている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		<input type="radio"/>
【コメント】		
施設の経営の状況については、月1回開催する職員会議の場で、毎回、総務より職員に説明する時間を設けている。経営状況について、全てを職員に周知はしていないが、運営状況や改善点については、職員会議の場等で、施設長から職員に伝えている。職員採用等、福祉現場全体が困難な状況にあるため、給与の改善等で雇用の条件を整えるよう努めている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		<input type="radio"/>
【コメント】		
単年度の計画については、事業方針等で明示しているが、中・長期的なビジョンは、職員会議等で口頭で説明することが多く、実際に目標が達成できているかの評価はできていない。10年先の職員採用や、子どもたちが卒園していった後のアフターケアの問題、グループホームの整備等を、中・長期的な問題、課題としている。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。		<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

単年度の計画は、実現を目指した内容となっているが、具体的な数値や成果を明示した内容にはなっていない。施設を卒園していった子どもたちがどう生活を支えていくか、それをどう支援していくかを、今年度の具体的な取り組みとしている。基本的には、子どもたち一人ひとりのニーズに合わせて対応していくこととしている。現在、高校生が3名おり、一人暮らしに向けて、巣立ちプロジェクト（外部団体のブリッジフォースマイルが主催しているプロジェクト）を立ち上げている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

単年度の事業計画は、施設長が作成している。作成にあたっては、前年度末の職員会議等で職員の意見を集約し、計画に反映するようにしている。作成した事業計画は理事会に諮ってまとめ、4月の職員会議の場で、施設長から職員に内容を説明し、周知を図っている。内容は冊子にまとめ、職員に配布している。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

保護者に対しては、入所時に理念や事業計画の説明を行っているが、様々な状況で入所してくるため、半数の保護者が入所に付き添っていない現実がある。子どもたちへの周知は、ホーム毎に行う「子ども会議」の場で、職員から投げかけているが、今後は工夫が必要と感じている。行事等のお知らせは、ホワイトボード等を活用し、子どもたちに周知するようにしている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

評価結果を分析、検討する場は特に設けていないが、日々のミーティングの場等で意見交換し、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを継続的に行っている。日々のミーティングの他に、職員会議や全体会議、調整会議、ケース会議、ホーム会議等を定期的に開催し、職員間の意見を統一して、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。事業本部の集まりでは、理事長も参加し、施設長間での話し合いも行っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

評価結果は職員に示し、情報を共有している。平日11時から開催する日々のミーティングでは、時間を多くとり、子どもたちへの対応の仕方等、職員間の意識を統一するために、じっくりと話し合うことができるようにしている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

有事における施設長の役割と責任については、不在時の権限委任等を含め明文化されていないが、施設長不在時には、主査、主任が代行するよう組織図で示している。現場の中で困っていること等の対応については、最終的に施設長が責任を持つことを職員に示している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

養護関係の施設長会や県の社会的養護の協議会には、積極的に参加し、遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。また、数多くはないが、法人の顧問弁護士へ相談したり、労務関係では社会保険労務士の助言を受け、遵守すべき法令等の理解に努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実に図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

養育・支援の質の向上に向け、毎月の職員会議の後に、県社会福祉協議会の児童福祉施設協議会が作成した「養育ブック改訂版」の輪読会を実施している。施設内で開催する会議や全体会議等に施設長が積極的に参加し、職員とともに、子どもたちへの養育・支援の質の向上に向け、意欲的に取り組んでいる。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	

【コメント】

職場環境の向上を目指し、給与改善を行ったり、タイムカードを導入し、超過勤務時間の減少等に努めている。また、記録類をデータ化することで、業務の効率化を図っている。人員配置の面では、フリーの職員を増やしたり、これまで非常勤だった心理士を常勤雇用する等、働きやすい職場作りをすすめている。また、ゴミの分別等にも配慮し、子どもたちに対しても日々、資源が有限であることを伝えている。施設内の節電やLED電球への交換を行う他、食材を無駄にしないよう工夫している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

福祉人材の確保・定着に向け、新任職員については、採用前の法人全体の新任研修の他、事業本部においても主査、主任が講師を担い、新任職員研修を実施している。研修担当を主査、主任として、年1~2回外部講師を招き、ライフストーリーワークや性教育等の内部研修を企画・開催している。外部研修については、年度初めに職員の参加希望も聞いている。また、専門職の雇用については、医療的ケアが必要な子どもも多いこと、面接中心の関わりを行いたいことから、看護師や心理士を常勤で雇用している。大学等との関わりでは、奨学金制度やインターンシップ制度を取り入れ、必要な人材の確保に努めている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

期待する職員像については、基本方針等を冊子にして職員に配布する他、日々のミーティング等で伝えている。「最後は子どもたちの利益」が大事あることを話している。施設長と職員との面談を年1～2回行い、年度末の面談では、1年の振り返りや次の目標等を確認している。施設長との面談は、堅苦しいものにしたくないため、目標管理シート等の書面は用いず、フランクな面接となるよう心掛けている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

職員の健康管理に努め、全職員を対象に年1回ストレスチェックを行っている。ストレスチェックは、法定のチェック表を用い、医療機関で集計し、状況に応じて医師の面接につなげている。また、衛生委員会の医師が、職員個人の悩み等に対応している。事業本部内では、主任以上を対象に管理職研修を行っている。管理職研修は月4回実施し、職員が働きやすい職場作り、職員が相談しやすい雰囲気作り等の話し合いを行っている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

施設長と職員の面談を年1～2回定期的に実施する他、今年度より、職員の指導、育成を強化するため、主査・主任と職員との面接を始めている。主査・主任との面接では、OJT（職場内の現任訓練）を中心として、仕事をしながら上々で困っていること、悩んでいること等を確認し、業務上の目標等を聴き取る場としている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

職員にとって必要と思われる専門知識や、技術を得得できる研修には、職員が積極的に参加できる体制を整えている。外部研修については職員の参加希望をとっているが、新任職員は施設長、主査、主任から内容を提示し、参加につなげている。外部研修参加後の研修報告は、各会議や日々のミーティングの中で行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

新任職員については、年間を通して、初任者研修を実施している。初任者研修は、事業本部で設定し、年10回程度開催している。外部のスーパーバイザー（対人援助職の教育における指導者）は入っていないが、主査、主任を施設内のスーパーバイザーとし、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。今年度より始めた主査・主任と職員との面接では、OJTを中心に、職員の仕事上の悩みや困っていること等を確認している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

主査、主任を実習生の受け入れ担当とし、毎年6～8校程度の保育専門学校や大学、短大からの実習生を受け入れている。実習生を嫌がる子どももいるので、子どもたちの反応を確認しながら受け入れを決めている。実習1か月前には、オリエンテーションを行い、主査、主任より、実習中の注意事項等を伝えている。実習生は就職につながることもあり、また職員にとっても勉強の機会でもあるため、同じホームに偏らないよう留意して、子どもたちの負担にならない範囲で受け入れている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ホームページやパンフレット等を活用して、法人の理念等を伝えるとともに、運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。また、地域に向け、事業本部全体の交流会（お祭り）や、各事業所の夏祭りを開催し、施設の役割や機能を地域に理解してもらう取り組みを行っている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎月定期的に外部の会計事務所によるチェックを受けている。3事業本部それぞれが毎月2日間のチェックを受け、内容を確認している。外部のチェックを受けることで、ミス等を防ぎ、公正で透明性の高い適正な経営・運営につながるよう努めている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自治会や子ども会の活動に、子どもたちが積極的に参加している。子どもたちは、地域の運動会やお祭りに参加する他、公園の清掃等にも出掛けている。職員は地域の役員等は担っていないが、行事の付き添いやスタッフとして運営の手伝いをしている。施設の物品等の貸し出しもしている。年1回、事業本部全体で地域に向けた交流会（お祭り）を開催している。交流会には、地域のブラスバンドやチアダンスの方も参加する他、子どもたちの学校の先生や友だちも訪れている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアは、主査、主任が中心になって受け入れている。基本姿勢の明文化等は特に行っていないが、受け入れの前に、口頭での説明は行っている。ボランティアは、元小学校の先生やシルバー人材センターからの学習ボラ、キャンプ等の野外活動、遊びや行事の手伝い、リトミック、ピアノ教室等のアクティビティ、活動ボラとして協力している。ボランティアは、活動後振り返りを行い、子どもの状況や気になったこと等を「連絡ノート」に記入し、施設に伝えている。ボランティアからの意見や指摘内容は、施設全体で受け止めて検討し、次の活動に反映できるようにしている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

地域の虐待防止連絡会に施設長が参加して、積極的に地域との連携を行っている。小・中・高校や養護学校等とも連絡を密にし、子ども医療センターや精神医療センター等のカンファレンスにも参加して医療機関とも連携している。児童相談所とは、年1回の連絡会の他、適宜連携し、個々の子どもの状況に合わせて対応している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域や区主催の会議へ積極的に参加している。施設長が参加する地域の中学校主催の「学地連」では、地域の防災の問題や青少年の非行防止等の問題を話し合っている。施設の会議室や地域交流室を地域に開放し、地域の福祉ニーズを把握するよう努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域の高齢化がすすんでいることから、災害時に若い人の力をどう借りるか、話し合っている。また、地域の防災拠点として、防災備品の備蓄を行っている。備蓄品として、飲料水や非常食を3日分用意する他に、井戸水やストレッチャーが提供できるよう準備している。また、地域の歯科医師と合同で、地域の方に向け、「お口の勉強会」等の講習会を開催し、専門知識を地域の方々に提供する機会を設けている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	<p>28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
<p>事業方針にも明文化している「子どもの最善の利益」を基に、子どもを尊重した養育を実施している。新任研修や中堅研修等の職員研修で、子どもを尊重した養育・支援について学び、職員間で共有している。日常の支援は、職員会議やミーティング等を通し、内容を共有している。日々の養育の中で、職員は常に子どもの意見に耳を傾け、今何を考え、感じ、思っているのかを聴いている。人権教育の研修も定期的に行っている。</p>		
②	<p>29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
<p>プライバシーの保護に配慮し、子どもたち全員が個室で生活できる環境を確保している。小学生等に対し、職員が一人ひとりの話を聴く時間を設けており、自分の部屋で一对一で話を聴いてもらうことをうれしく感じている子どももいる。食事はユニット（ホーム）の中で皆で食べ、テレビを見て楽しんだりしている。入浴については、個々のプライバシーを守ることができるよう配慮している。小さい子どもは、職員と一緒に脱衣所に行き、見守りする等、年齢に応じた対応をしている。</p>		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	<p>30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/>理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>見学等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
<p>法人や施設のパンフレットを用意し、家族や外部に向け、養育・支援の説明に使用している。パンフレットは写真等を使用し、わかりやすく、親しみやすいものにしている。入所時には保護者や子どもに説明するとともに、安心して生活ができるよう、施設内の生活環境を見てもらっている。施設内の見学は、すでに入所している子どもたちが学校に行っている時間帯に行っている。</p>		
②	<p>31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p>

<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設での生活の開始にあたっては、子どもたちが主体的に選択できるよう配慮している。まずは施設での生活の流れ等を説明し、生活に慣れた頃に面接し、自立支援計画の策定につなげている。どのような目的を持って生活をするかを話し合い、自立支援計画を策定している。自立支援計画書は、子どもと一緒に担当の職員が作成し、ホーム会議において内容を確認している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

昨年、家庭へ移行した子どもが一人いたが、現在も母親から相談の電話を受けている。また、先日の施設行事にも遊びに来てもらっている。卒園後、グループホームに2人入所したが、3か月に1回は必ず職員が面会に行き、生活の様子を聴いたり、一緒に食事をしたりして状況を把握し、いつでも相談ができることで安心してもらっている。知的障害児施設に移行した子どもが4人いるが、普通学校では辛い思いをしていたが、新しい施設では楽しく伸び伸びと生活していると感じている。退所した子どもには、誕生日の手紙や年賀状を必ず送っている。退所した子どもへの対応は、主査・主任と担当職員が行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年1~2回、食事の嗜好調査を行っている。子どもたちには唐揚げが一番の人気である。月・木・土・日曜日の夕食は、厨房ではなく、ユニット（ホーム）で職員が子どもたちと好きなメニューを考え、作っている。また、子どもたちからリクエストメニューを聴き、順番に好きなメニューを作って満足してもらっている。ユニット（ホーム）ごとに子ども会議を持ち、子どもの要望を聴いたり、自由に話が出来る場を設けている。また、意見箱を設けているユニット（ホーム）もある。ゲーム・テレビの時間等について、子どもたちが話し合い、時間を決めている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
<input type="checkbox"/>	養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮しながら、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもと一対一で居室で話しを聴く時間を毎日設けている。高校生等、進路のこと等で話がある時は、時間を決めて相談室を使用している。子ども会議等、口頭で聴く場合が多いが、意見箱も設置している。意見箱には、食事のことが多く寄せられている。苦情解決責任者は施設長、苦情受付担当者は主査と定めている。下校途中の喧嘩について、地域住民から苦情が出たことがあり、施設長と担当者で迅速に対応している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもと一対一で話す時間を毎日設定し、子どもたちの意見を聴いている。子どもたちの話は部屋で聴くことを基本としているが、高校生等の悩みや進路の相談は、相談室を使用し、落ち着いて話ができるように配慮している。また子ども会議をユニット（ホーム）ごとに開催し、子どもたちが意見を言いやすい環境を作っている。意見箱を設置しているユニット（ホーム）もある。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもからの意見は、「ご飯のお代りの時にもフリカケをかけた」等、ユニット（ホーム）内で解決できるものはすぐに対応している。子どもたちから相談や意見を受けた時は、個人記録やミーティング記録等に記録し、解決までの記録を残している。子どもからの意見には常に耳を傾け、迅速に解決できるようにしている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】
 法人全体で危機管理委員会を設置し、毎月、委員会を開催している。同じような状況が繰り返されないよう、事故報告書やインシデント（ひやり・はっと）レポートを活用し、再発防止に努めている。交通事故の対応や不審者対応については、フローチャートを作成し、職員間で内容を共有している。また、施設の入りを開放しているの
 で、防犯カメラを設置し、警備会社の定期的な巡回を受けている。1階のユニット（ホーム）には、警備会社へ直通連絡できるよう、ブザー盤を設置している。警察による交通安全指導も受けている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】
 感染症の予防に関しては、看護師が中心となり、管理体制を整備している、特に感染症の起こりやすい時期には、日々のミーティングの場で、子どもたちや全職員が感染の予防を徹底できるよう伝えている。ノロウイルス等への対応は、マニュアルに沿って、看護師が対応の仕方を全職員に指導している。各フロアに対応キットも置いている。感染症が発生した場合は、ユニット（ホーム）間の行き来を中止したり、手洗いの励行やマスクの着用、家事業務の中では次亜塩素酸使用やアルコール消毒を徹底し、感染の拡大防止に努めている。特に罹患者を隔離した場合は、子どもの心理状態にも配慮するようにしている。また、法人全体で年1回、普通救急救命講習の受講の機会を設けている。講習会には新任職員だけでなく、資格の有効期限が切れた職員も再受講している。事務所及び各部署に、AEDを設置している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】
 防災委員が主体となり、避難訓練を毎月行っている。年1回は消防署による指導の下で訓練を行い、地震、津波、豪雨、大雪対策等の訓練を計画に沿って実施している。訓練の実施記録は報告書にまとめ保管している。災害時の連絡体制、連絡先等も職員全員に周知している。備蓄庫の非常食は栄養士が管理し、避難訓練の際に新しいものと入れ替えている。また、毛布や簡易トイレ等の物品も整備している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

事業計画に、理念や基本方針、支援計画書策定について明示している。年度初めの職員会議で全職員に内容を周知し、子どもに対しての養育・支援を実施している。子ども自身が将来について夢や希望を持ち、将来の生活についてイメージが持てるよう、自立支援計画の作成を子どもとともに行っている。安心した生活を送ること、大人との関係性の心地よさを感じることを、他者から愛されること、そしてプライバシーに配慮された生活を送ること等を、養育・支援の目標としている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

年2回、定期的に自立支援計画の見直しを行っている。見直しの際には、担当職員が子どもとの面接を行い、養育・支援の内容を振り返りながら、今後の生活の目標を策定している。自立支援計画は、ユニット（ホーム）内の会議や職員会議等でも見直し、子どもや職員の意見を反映するようにしている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画の策定は、子どもと面談を行い、子どもの意向を確認し、担当のアセスメント情報を下にユニット（ホーム）の全職員ですり合わせを行い、内容を確認している。最終的には職員会議で、施設長や看護師、栄養士、心理士等の意見も集約し、合議の上で策定している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

上半期、下半期の年2回の振り返りを、子どもと担当職員で行い、子どもの意見が生活の中で生かされたか、目標は無理のないものであったか、支援の成果はどうだったか等を話し合い、次の自立支援計画につなげている。振り返りの結果は記録に残し、職員会議等で職員間で共有している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子ども一人ひとりの自立支援計画書や支援記録は、パソコンの共有ネットワークにて、いつでも閲覧ができるようにしている。日々の子どもの健康面や連絡事項については、業務日誌を用いて、職員間で共有する仕組みを作っている。日々の支援以外でも、個別のケースで特記すべき事柄については、支援記録と同様に、施設内で共有できる仕組みにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画書等、パソコンで内容を共有できるようにしている。記録を簡素化し、空いた時間を子どもとの対応の時間に充てられるよう、今後は児童相談所用ソフトを導入することを法人と相談している。記録類の保管は、規程に基づき、定められた場所に適切に保管している。また、廃棄方法についても、規程で定めている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの権利擁護については、規程やマニュアルを整備し、人権に関する研修も随時行っている。常に子どもを第一に考えた支援のあり方や対応策を検討している。職員会議やミーティングの場等で、子どもの養育等の支援方針について話し合い、職員にフィードバックしている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ブックやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおどめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時、子どもたちに「権利ノート」やその他資料を用いて、児童相談所と協力して、権利について分かりやすく説明している。日々の生活の中で、子どもたちの意思や考え方を尊重し、自分を大切にするとともに、他者も大切にしなければいけないことを伝えている。虐待を受けた子どもは、「すべて自分が悪い」と考えていることが多いので、セラピー等を取り入れ、正しく理解できるよう取り組んでいる。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援計画策定時に、子どもたちから、自分の生き立ちや両親に関すること等、聞きたいことを確認している。子どもたちに事実を伝える時は、児童相談所と相談しながら対応している。毎日、就寝前に子どもたち一人ひとりに寄り添い、楽しかったことや困っていること等、何でも話ができる時間を作っている。子どもたちのアルバムには、担当職員がエピソードやメッセージを入れ、成長を振り返ることができるようにしている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に行う仕組みが、	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようになっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受ける。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

不適切な関わりの防止と、問題の早期発見に向け、性教育やCAP（子どもへの暴力防止プログラム）研修等を通じ、子どもたち自身が自分の安全を守り、安心できる環境を作るための方策を伝える機会を設けている。子どもたちから不適切な関わりがあったと報告を受けた場合には、施設長を含めた職員が聴き取りを行い、事実確認を行った上で、迅速に対応する体制を整えている。今年度から心理士を常勤雇用し、セラピーが必要な子どもには、定期的に支援を提供している。ユニット（ホーム）は、男女混成としているが、男女それぞれを尊敬し合いながら生活できるようになることも、目的のひとつとしている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

子どもたち一人ひとりに個室を用意し、物の配置や装飾等については制限を設けず、子どもたちが自由に過ごせるように配慮している。子どもたちは、好きなアイドルのポスター等を自由に貼っている。習い事や塾の選択も、子どもの希望をできるだけ尊重するようにしている。運動場や中庭の使用ルールや、行事の進め方についても、職員だけで決めず、子どもたちの意向を尊重し、子どもたちが参加しやすいようにしている。毎月の小遣い等の金銭管理についても、子どもと話し合って決めている。子ども会議等であがった子どもたちの意見や希望については、内容を職員全体で共有し、検討している。子どもたちからは、スマホを持ちたいとの希望が多いが、何故高校生以上なのかを丁寧に説明し、理解を促している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設室体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

新規で入所するケースについては、児童相談所と協力し、子どもが事前にホームを見学したりして、ホームや職員の様子を知ることができるよう配慮している。入所後も家族交流やきょうだい交流等、家族とのつながりが途絶えないようにしている。家庭復帰した子どもや、措置変更した子ども、退所した子どもについても、アフターケアの担当職員が中心になり、一定の期間連絡を取り、退所後の様子を確認しながら、アフターフォローを行っている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所を迎える子どもには、事前に一人暮らしの練習を施設内で行い、職員からも自立した生活を送るための助言や指導を行っている。退所後も必要に応じて、関係機関とのカンファレンスに参加している。家庭復帰した子どもや、措置変更した子ども、退所した子どもについても、アフターケアの担当職員が中心になり、一定の期間連絡を取り、退所後の様子を確認しながら、アフターフォローを行っている。退所した子どもたちに対して、施設行事の案内を送り、退所後も継続した関わりが持てるようにしている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
子どもの日々の様子については、毎日のミーティングや各ホームの申し送りで状況を共有し、必要な事項について検討している。子どもたちの中には、親に対しての怒りが職員に対して出ることもあり、本人の生育歴や、背景の要因等を踏まえながら、検討を行っている。対応については、児童相談所とも連携し、必要に応じて、施設内心理士や児童相談所の心理士も加わり、子どもの心理的な状況の把握に努めている。		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○
【コメント】		
ホーム内のルールは、子ども会議や面談を通して、子どもの意見をできるだけ反映して作成している。子どもたちが安心して話ができる時間として、就寝前に子どもと一対一で過ごす「個別の時間」を設けている。「個別の時間」では、子どもの一日の出来事や悩みを聴き、支援につなげている。幼児には、職員が寄り添って休む等して、安心できる環境作りに努めている。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○
【コメント】		

子どもの自主性を尊重し、自分から積極的にチャレンジできる機会を設けている。子どもの年齢や特性に応じて、本人が理解し行動できるよう、失敗しても叱責せず、「次はどうしたら良いかな」というように、ポジティブに考えられる声掛けを心掛けている。職員の手が足りなくなってしまう場面では、隣りのホームやフリーの職員が協力し、施設全体で子どもの把握ができよう配慮している。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設の中庭には、子どもたちのニーズに合わせ、サッカーゴールやバスケットゴールを設置している。また、各ホームに置いてある玩具や本も、子どもたちの発達の状況に合わせて用意している。小学生を対象とした学習ボランティアによる夏休みの学習や、NPO法人主催のイベントへの参加等、子どもたちが積極的に地域社会で活動できる機会を提供している。学校の友だちが遊びに来ることもあり、子どもたちと一緒に遊具で遊んでいる。訪れた友だちにも、おやつを出したりしている。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立することともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

それぞれのホームが、穏やかな雰囲気となるよう心掛け、秩序ある生活作りに努めている。生活習慣の確立や、社会常識、生活規範の習得等、子どもたちが生活技術を身に付けることができるよう配慮している。職員が率先して子どもの手本となるよう努め、「やっていいこと、やっていけないこと」を、子どもと一緒に話し合っている。子ども会や自治会等が主催する地域行事には、施設全体で参加するようにしている。また、外部団体の協力も仰ぎ、高齢児を対象に、インターネット等について正しい知識が習得できる機会を設けている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですりながら食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気です、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

楽しく会話をしながら食事ができるよう、食事の時間は、年齢に関係なくホームで統一したり、皆で一斉に食べられるよう工夫している。毎朝食と月・木・土・日曜日の夕食は、厨房ではなく、職員が各ホームのキッチンで作成、土曜日には子どもからのリクエストをメニューに取り入れ、食の楽しみを得られるようにしている。職員手作りの食事は、子どもたちに人気があり。子どもたちはとても楽しみにしている。また、子ども向けの調理実習等を実施し、子どもにとって調理が身近になるよう配慮している。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

自分が希望する衣類等を購入できるよう、衣類の購入は、できるだけ子どもと一緒にしようとしている。中学生になると、自分で選ぶ子どももいるが、値段やスタイル等について、職員と相談したり、一緒に考えて購入するケースが多い。衣類の洗濯や管理は、子どもの年齢や発達段階に合わせ、自分でできるよう促している。すべてを子どもに任せるのではなく、自立支援計画書等にも記載し、無理のない範囲で行うことができるよう支援している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

子どもたちの居室は全室個室で、室内から鍵を掛けることができ、子どもたち全員にプライベートスペースを確保している。ホーム内の空間は明るく、清潔が保たれ、適切な生活空間となっている。リビングは、子どもたちが過ごしやすい居心地の良い場所となっている。居室の掃除は、子どもたちそれぞれに合った仕方を一緒に考えて実行している。居室以外の共有スペースは、毎日清掃を行い、清潔な状態を維持している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるように説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○

職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。

【コメント】

毎日、看護師が巡回し、子どもたちの健康状態を把握し、医療機関とも連携している。通院が必要な子どもには看護師が付き添い、状況を職員や心理士と共有している。また、子どもたち全員を対象に、定期的に健康診断や予防接種を行っている。服薬の管理は、看護師だけに頼らず、各ホームで管理する仕組みを整えている。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援プログラム（性と生を話し合うプログラム）を作成し、施設長及び各ホームから職員1名が参加して、性に関する教育に取り組んでいる。プログラムに沿って、子ども達全員を対象に年2～3回、子どもたちのグループワークを行っている。グループの構成は、年齢や性別に配慮する他、子どもの理解力も考慮し、10グループ程度に分け、各グループのニーズ等に合わせて内容を検討している。年1回、外部講師を招き、職員向けの研修も行っている。性をタブー視せず、子ども自身が、性に対して正しい理解を得ることができるよう努めている。ユニット（ホーム）は男女混成としているため、子どもたちの男女比に合わせて同性の職員を多く配置している。女子の身体の変化に配慮して、夜間帯は他のホームの女性職員が対応できるようにしている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したもとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設内の暴力行為については、自傷他害に関係なく、一貫して不適切な行動であることを子どもに伝えている。また、不適切な行動のあった子どもに対して、批判したり、人格を否定したりしないよう配慮するとともに、担当職員が一人で問題を抱え込まないよう、施設全体で対応している。子どもの問題行動には、保護者や児童相談所とも連携して取り組んでいる。これまで外国籍の子どもの受け入れはないが、子どもの生育歴や家庭の背景等について適切に配慮するようにしている。また、知的障害や発達障害のある子どもが多く生活していることから、手帳の所持に関わらず、特にいじめや暴力を受けていないか配慮している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 天人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>

暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。

【コメント】

子ども間の暴力やいじめ、差別等については、内容を把握し、速やかに事実を確認し、振り返り、子ども同士の話し合いの場を設定している。施設長を中心にして全職員で問題に取り組み、対応の仕方を検討して支援に反映している。課題を抱えた子どもや、入所間もない子どもは、特別な配慮が必要となることから、児童相談所とも連携し、個別援助を行っている。

(8) 心理的ケア

① A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。

b

心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。

施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。

心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。

職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。

心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。

児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。

【コメント】

心理的ケアが必要な子どもには、施設内の心理士が中心となり、個別の自立支援計画等を基にして、セラピーを実施している。セラピーの内容については、児童相談所の担当ケースワーカーや心理士と内容を共有し、心理士間で役割を分担している。常勤の心理士を配置し、心理療法室も整えている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。

a

静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。

学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。

学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。

忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。

障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。

【コメント】

子ども一人ひとりの学習ニーズについては、自立支援計画にも組み込んでいる。小学生は学習ボランティアや地域の公文教室等を利用し、中学生は塾に通う等、子どもたちの学力向上を支援している。学校の先生と密に連絡を取り合い、子どもの学習状況や課題等を共有し、学校と施設それぞれがどのように対応していくか検討している。

② A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。

a

進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。

進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。

就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証入確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。

進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。

学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。

<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

進路先については、選択に必要な情報を提供し、子どもの意向を最優先しながら話し合いを行っている。子どもたちが将来についてビジョンが持てるよう、児童養護施設出身の社会人の方の話を聞く子ども向けの研修や、職業体験ができるテーマパーク等に行き、子どもたちが興味を持てるよう支援している。また、NPO法人の協力を得て、進路先や奨学金の情報等を、子どもたちに提供している。

③ A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	

【コメント】

特別支援学校に在籍している子どもの実習は、学校側より、職場実習の設定や紹介を受けている。アルバイトは、通っている学校の校則に留意し、門限や日常生活に支障がない範囲で奨励している。アルバイトは、お金を稼ぐ大変さを知る良い機会であり、社会の仕組みを実感する場となっている。子どもたちは、退所後の社会生活に大きな不安を抱えているので、実習やアルバイトの経験は、不安を軽減する良い機会となっている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できよう図っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの育児に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家族に対し、子どもの様子や状態を密に連絡している。施設の行事や、学校の授業参観や行事等も家族に連絡し、定期的に子どもと交流できるようにしている。家族とのやり取りは、窓口職員は特に置かず、ホームの職員それぞれが対応できるようにしている。面会や外出、一時帰宅は、児童相談所とも連携し、家族の意向や現状を踏まえ、段階的に取り組むようにしている。

(11) 親子関係の再構築支援

① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの完結で、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問に施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

親子関係の再構築については、児童相談所とも連携し、家族の意向や現状を踏まえ、段階的に取り組むようにしている。現在、家族と交流ができているケースでは、児童相談所を交え、定期的に交流時の振り返りを行っている。交流時に困難と感じたこと、家庭復帰に向けて不安に感じることを確認して支援している。施設内に親子訓練室を設け、子どもと過ごす場を提供している。子どもたちの反応は様々なので、状況を確認しながら親子を支援している。